

# E V 向け部品量産へ

## サンコール菊池 来年末に本格稼働

自動車部品メーカーのサンコール(京都市)は22日、子会社のサンコール菊池(菊池市)で、新たに電気自動車(EV)向け部品の製造を始めると発表した。約4億円を投資して

生産ラインを導入し、2024年末ごろの本格稼働を目指す。自動車業界では脱炭素に向けた電動化の動きが加速しており、EV向け需要の高まりに対応する。

サンコール菊池では、主に自動車のエンジンやブレーキ制御などに使うばねを製造している。EV向けに、大きな電流を流すことのできるバスバーと呼ばれる配電用の部品を新たに生産。既存建屋(約6900平方メートル)内にバスバー製造ラインを整備するほか、敷地内

に製品保管用の倉庫を新設する。

同社は1973年設立。19年時点の従業員数は約90人。新たに約50人の雇用を計画している。

サンコールは現在、愛知県豊田市の広瀬工場でバスバーを生産。国内自動車メーカーからの大型受注があり、ばね製造で培った加工技術に強みを持つ菊池での生産を決めた。バスバー事業の25年度の売上高を、22年度比2・7倍の40億円と見込む。

(山本文子)